

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組1〕 医師・歯科医師を対象とした事業  
(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成  
テーマ② 慢性の痛みに関する領域

整理番号

4

申請担当大学名 (連携大学名)	山口大学 (大阪大学、滋賀医科大学、愛知医科大学、東京慈恵会医科大学) 計5大学
事業名	慢性の痛みに関する教育プログラムの構築
事業責任者	医学系研究科 整形外科学講座 教授 田口 敏彦
<b>事業の概要</b>	
<p>5大学が中心となり、共通の教育資材、理解度確認問題を作成し、モデル授業を実施するなど、医学部卒前教育において、慢性の痛みに関する共通のカリキュラム作りを行う。各大学で実習やセミナーなど、医学部卒後教育、看護卒後教育、その他の学部の卒前卒後教育、リハビリ系教育機関の卒後教育にも取り組む。セミナーの開催や人材交流を通して地域の医療機関との連携を深め、慢性の痛みを対象とした診療システムの整備につなげる。5大学の人材交流、定期的な合同会議を通じて、それぞれの大学の教育・普及活動のノウハウを共有する。更に、それぞれの地域における慢性の痛みに関する集学的診療システムの推進にも寄与する。インターネット、公開講座、出版物など一般市民・地域社会への広報にも努める。年1回報告会を開いて、NPO 法人いたみ医学研究情報センターの評価を受け、事業にフィードバックさせる。</p>	
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：充実を要する点等	
<p>○達成目標には、生物心理社会モデルに基づいた慢性痛の診療を掲げるなど、新しい視点からのプログラムとして期待できる。</p> <p>○5大学が連携し、医・歯・薬及び医療従事者を含めた指導者養成を行う点は評価できる。</p> <p>○地域で活躍する産業医、民間企業、行政などとの連携構築について体制整備推進策が示されている点が評価できる。</p> <p>○痛みに関する研究班に属する大学が連携したプログラムであり、その実績と国公立大学にわたる波及効果が期待できる。</p> <p>●本事業における責任体制及び5大学の連携方法、役割分担をより明確化する必要がある。</p> <p>●学生への教育内容を具体化するとともに、現職のチーム医療教育の観点も検討する必要がある。</p> <p>●本プログラムの参加者のモチベーションや教育効果の向上にもつなげるため、本プログラムを通じて養成される人材像とその具体的なキャリアプランを明確に示す必要がある。</p> <p>●5大学の連携の強みを生かし、新たな展開につながるような実効性のある計画・取組が必要とされる。</p> <p>●学部学生及び大学院、一般医師・歯科医師コースにおける履修科目等が同一になっているが、それぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。</p> <p>●補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。</p> <p>●他大学等の参考となるよう本事業に係る取組や成果等を積極的に情報発信するなど、事業の普及・展開に努める必要がある。</p>	